

⑦ 知的障害者の保健衛生・看護

課題：安全で快適な環境づくりのために、支援員のすべきことは何か。また、あなたの業務を振り返り述べなさい。

障害者施設で働く支援員として大切なことは沢山ある。利用者の障害特性の理解、障害に対する専門知識、福祉に関する法律、そして何よりも人と接することが好きということだろう。しかし、日常の中で風景になり、疎かになりがちなのが環境整備である。特に古い施設であったり、行動障害により物や建物を破壊する方がいたりすると、「またどうせ壊されるから直しても無駄」と放置してしまいがちである。そうすると様々な弊害が出てきて、利用者の安全に支障をきたし、事故や引き起こさなくてもいい問題行動にまで発展してしまったりする可能性もある。

一言で環境といっても、様々な条件の調整が必要になる。その中でも大きく分けて自然環境・生活環境・住居管理は大きな割合を占めると言える。

自然環境では、採光、換気、湿度・温度等がある。日光は殺菌効果があり、人体にとってはビタミンDを生成する等大事な要素がある。また日の光が射すだけで、施設内の雰囲気明るくなり、利用者・支援員共に自然と気持ち明るくなる。見学者等外部から来た人の印象もよくなるのであろう。換気では特に冬場はエアコンを使用することにより、一日中部屋を閉め切った状態になる事も多い。特に空気感染による病気が流行する時期には30分に一度の換気を心がける。また外気を入れることで、気温差を体感し新鮮で爽

やかな空気を入れることで集中力を高めたり、気分転換になったりもする。

温度・湿度に関しては、どうしても支援員自身の体感に合わせてしまうことが多くなる傾向がある。夏場であれば、利用者の体が冷えきってしまうほど冷房をかけたりという場面もよく見かける。外気との差が大きすぎると、訴えることの難しい方や体温調節の苦手な方はそれだけで体調を崩すこともある。特に湿度は、冬場は暖房の使用により、予想以上に低くなる。作業室等の比較的広い部屋では、加湿器の使用だけでは足りない場面があるので、湿らせたバスタオルなどを干したりする。特にインフルエンザの時期は、湿度を50～60%に保つことで飛沫感染の確率を大幅に減らすことが可能となる。

生活環境で大事なことは、「個の確保」である。今でこそ個室化が進められているが、個室でない場合は特に配慮が必要である。自分自身に置き換えてみれば、常に他人と一緒にという状況は相当にストレスがかかり、時には逃げ出したくなる。自分で処理できればいいが、利用者のほとんどがいきなり場合が多く、体調が崩れたり、問題行動が現れたり様々な形で表出してくるだろう。また、共有スペースに関しては、常に整理整頓を心がけ、事故が起こらないように細心の注意を払う必要である。

住宅管理は、掃除や設備の手入れ、掃除や設

備の手入れ、消毒等がある。居室や作業室、トイレ、浴室等はもちろん毎日掃除を行なうが、グループホームでは冷蔵庫やゴミ箱も週もしくは月単位で手入れを行なう必要がある。トイレや洗面所の手拭きタオルや入浴時の足拭きマットは共有せず、個人物を使用することで水虫や日和見感染を防ぐこともできる。特に水場では、滑って転倒する可能性を頭に入れ、常に気を配る必要がある。通所施設では、外部からの菌の侵入を防ぐため、支援員は携帯用のアルコール消毒を持ち、通所時や外出から帰ってきた際に玄関先で消毒を行なうことも一つである。また、階段の手すりやイスの背もたれ、机の側面等見えにくい部分の消毒も忘れないようにする。

私の職場では、危険予知トレーニングとして、施設内の日常の風景をランダムに撮影し会議で危険個所と考えられる事故を予知することで、安全な環境づくりを支援員全員で周知している。周知することで指摘し合うことができる。また、環境を風景にするのではなく、少しでも汚れや破損した個所ができた場合は、すぐに修理をすることも心掛ける。支援員にとっては

何気ないマットのめくれ、床（洗面所やトイレ）の水濡れは利用者にとって大事故に繋がることもある。自分が少しでもヒヤッとしたことは、その場で終わらせるのではなく、ヒヤリハット報告書を書き、支援員全員で共有することで、未然に防ぐ意識を作ることができる。作業室や居室の整理整頓は、事故防止のためには必要不可欠だ。

私たち支援員は、利用者の命を守ることが大前提で仕事をしなくてはならない。それは直接支援だけでなく、このような環境的支援も重要であることを再認識したうえで、仕事に臨まなければならない。

講評：

- ・環境整備の意義をしっかりと捉えられています。
- ・「もし自分がそういう立場、環境に置かれたらどんな気持ちになるんだろう?」と考える思いやりを感じました。
- ・危険察知トレーニングをいうのも環境整備の完成を高めるための良い方法です。